

題字・山下太郎名誉教授

静岡大学文理・人文学部同窓会

発行人 ■鈴木基之

編集人 ■岳委員会

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学共通教育A棟

Tel.054-238-5148 Fax.054-238-5148

〈住所訂正のお願い〉

昨今の市町村合併の影響で、転居しなくても住所表記が変わるケースが増えています。順次訂正に務めておりますが、訂正漏れがありましたら最終面の「変更データ個人票」でお知らせください。

静岡大学文理・人文同窓会事務局

人文学部長就任のご挨拶

2007年5月20日
人文学部長 浅利一郎



平成19年4月から2年の任期で人文学部長職を務めることになりました経済学科の浅利一郎（教授、理論経済学）です。同窓会誌『岳』の紙幅をお借りして、就任のご挨拶を述べさせていただきます。

文理・人文学部同窓会の諸兄姉には、常日頃、人文学部の教育・研究をご支援していただき、また学部の発展に協力していただいておりますこと、人文学部を代表し改めてお申し上げます。

私も静岡大学人文学部の卒業生（1973年卒業、人文5回）で、学部の教員であるとともに人文学部のOBのひとりとして現役学生達が自らの希望や目的に向かって少しでも前進することに協力したいという気持ちで教育と研究に携わってきました。この度、分不相応に学部長を務めることになりましたが、それもひとえに長年お世話になった静岡大学と人文学部のためにできるだけことはしたいという気持ちからです。

国立大学が法人化されて3年がたち、国立大学法人の問題点や課題もだんだんと明らかになってきています。その中のひとつは、国立大学の財政的基礎である運営費交付金にかかわる問題です。運営費交付金は、国家財政の国債発行残高の累積的拡大もあって毎年減らされてきており、さらに、教育研究をめぐる大学間競争により運営費交付金を配分すべきなどという議論も出てきています。それも国家財政の赤字累積からやむをえないことだという考え方もありますが、教育は「国家百年の大計」であることから簡単に経済の競争原理で教育を考えるわけにはいきません。21世紀の少子高齢化社会の到来の中で、日本の将来の展望を「物づくり社会」から「人づくり社会」に転換するといふのであれば、教育こそ未来の日本社会を支える基盤でなければならないところです。それに対し、国立大学のもうひとつの役割である研究面では、科学研究費補助や産学共同研究などによる外部資金の獲得が、研究上の財政的基礎になりつつあります。そういう意味では、国立大学は教育と研究の両面で経済社会の要請に応えようとするとともに国際的に通用する高いレベルで教育と研究をおこなうことが一層求められています。

静岡大学は、2007年4月に興直孝・新学長が就任され、また、元人文学部長の山本義彦教授が教育担当理事・副学長として静岡大学全体の運営に参画しました。

新しい役員体制の下で、人文学部・大学院人文社会科学部研究科の教育改革を進め、また学部改組を含む教育組織の整備に、学部・大学院のスタッフ一同で取り組むつもりです。これらは学内だけで進める課題ではないので、文理・人文学部同窓会の助言や協力をぜひともお願いしたいと考えております。

最後になりますが、文理・人文学部同窓会の益々のご発展を願っております。

旧制静岡高創立85周年記念大会開かれる

6月10日 帝国ホテル 富士の間
人文3回 三島文夫



富士山をあしらった大きな緞帳のある静岡ゆかりの人たちの集まりにふさわしい富士の間。出席者約400名、うち、文理・人文同窓会からは、約50名。鈴木基之文理・人文同窓会会長、興直孝静岡大学長、浅利一郎人文学部長も来賓として出席。



午前11時から、19年度総会として事業報告等が簡単になされ、その後、85周年記念大会が催された。物故者会員に対する黙禱。低音でゆっくり、「・・・はばかり富士のね・・・駿河の海原・・・」と校歌斉唱。土屋公献旧制静岡高同窓会会長挨拶「大正11年、官立22番目として誕生。3年間ないし

4年間を過ごした。約5000名の卒業生を輩出した。現存する者は、千数百名。中曽根元総理も今日は、一会員として出席されておられる。今後の同窓会のあり方について、この一年間で皆さんに考えてもらうことにしている。」。続いて、興学長、浦和高等学校同窓会理事長 神津直次さんから祝辞。その後、姫野友美さん（新制静岡高校、東京医科歯科大卒。日本薬科大学教授。ひめのともみクリニック院長。父とおじは、旧制静岡高卒）の「男にはわからない女の不思議」と題しての講演。男と女は、生まれながらにして脳の構造そのものが違う。男と女では、ものの感じ方、考え方が違ってくる。その後、静岡大学吹奏楽団による仰秀察代表察歌「地のさざめごと」、応援歌「東西南北に」の演奏。同吹奏楽団は、全日本吹奏楽コンクール（大学の部）で、一昨年、昨年と2年連続銀賞を受賞。式典閉会の辞に立った大塚正信幹事は、90周年もぜひやりたいと力強く述べられた。その後、中曽根元総理の乾杯で祝宴に入った。



第12回東海支部総会が開催されました。

人文14・水野裕之（東海支部副支部長）

平成19年6月24日(日)午後4時から、名古屋駅太閤通口の名鉄ニューグランドホテル7階「扇の間」において、東海支部の第12回支部総会が開催されました。

大学から浅利人文学部長、同窓会からは鈴木同窓会長はじめ各支部の代表の方々、そして工学部同窓会の浜松工業会愛知支部の代表の方をお招きし、約50名の同窓生の皆さんにご参加いただきました。

総会に続く講演会では、名鉄不動産(株)勤務の大村卓久さん(人文11)に、「最近の身近な不動産事情」についてお話ししていただきましたが、名古屋駅周辺の再開発プロジェクトなど、改めて名古屋は「元気」なんだなと実感させられました。

懇親会は前回に引き続き、着席方式でのパーティー。会が盛り上がるにつれ、自分のイスを引っ張ってきて話し込む姿があちこちで見られ、とても良い感じだったと思います。年配の先輩方には、やはりイスは必須で

すよね(笑)。会の盛り上がりが高まったところで、恒例(?)となった清水碩二さん(文理3)のシャンソンです。今回は「見上げてごらん夜の星を」をみんなで歌ったりしました。

そして雰囲気を一変してフィナーレは「地のさざめごと」。竹本章さん(文理5)のリードで、皆で心を合わせて高唱しました。8月25日(土)に名古屋国際ホテルにおいて「東海学士会寮歌祭」が開催されるとのこと。旧制静岡高の歴史を継ぐ者として、皆で「地のさざめごと」を歌いでかけましょう。

若い人が少ない、女性が少ない、そもそも出席者数が少ないなど、様々な問題を抱えてはいますが、二年に一度、こうして旧交を温め合うのはとても素晴らしいことだと思います。次回は平成21年です。またお目にかかれるのを楽しみにしています。

大いに語り飲み歌った穆寮会議を開催！

11月11日、午後6時より、静岡市のマイホテル電宮で2年ぶりに仰秀寮一穆寮会議が開催されました。以前は3年毎に開いていたのですが、高齢になりあと何回続くかわからないので最近では2年に1回になり、今回は毎年やったらという意見も出ました。

上は昭和27年入寮から下は昭和40年入寮まで37名が集まり、青春時代にタイムスリップして大いに楽しみました。田邊（旧制茂木）さんには病をおして出席していただき



大変ありがとうございました。

長老の田中さんのカンパイで始まり、先輩から順々に「近況報告」をしていきましたが、昔話しやら旅行のはなし、健康の話…等、とても時間が足りません。

寮歌に移って、「仰秀寮第一～第四寮歌」「穆寮々歌」「ノー工節」「一休さん」「国

際学連の歌」「兄弟心中」…ロンドも出て、まさしく「青春時代を謳歌」しました。

司会の関さんが時間だからとやめるのに一苦労しました。

二次会では加藤君が作ってきてくれた寮生活の懐かしい写真のスライドを上映し、寮祭や合コン、ストームの写真に大歓声がわきおこりました。「あの頃君は若かった」を実感した日でした。その後グループにわかれて夜おそくまで談笑しました。

次の日は静大跡地・浅間山方面と現在の静岡大学見学グループに分かれて行動し、城北公園へ行った人は浦島太郎の気持ちがわかるねと話してました。浅間山の頂上からはきれいな富士山も見え、ハイキング気分を満喫する事ができました。

静大へ行った人たちは途中、仰秀寮の後を継いだ雄萌寮に立ち寄った後、広く高低差の大きい大谷キャンパスを車で一巡した。その中で、ビキニ事件を契機に発足した放射科学研究施設（現理学部施設）のリニューアルされた放射科学実験棟を見学した後、理学部の講義室に入り、暫し往事を懐かしんだ。さらに日本平で素晴らしい富士山と対面し大きな感激を受けた。

ともあれ、充実した二日間を過ごしました。

静高・静大で盛り上げた全国寮歌祭

人文10・法 田中稔崇（関西支部幹事）

平成19年5月12日（土）正午より「大阪ガーデンパレス」において、第42回全国寮歌祭が開催されました。

当日は朝から快晴の寮歌祭日和。全国各地から「昔の若人」が多数、大阪に集われました。

今年旧制静岡高校が85周年に当たるため、特別出演での出演となり、例年の4～5名での出演では格好がつかないと関西静高会の皆さんを中心に一念発起。静大同窓会関西支部にも呼びかけられて、事前の打ち合わせも重ね、当日は、静高が関西静高会代表幹事の村尾さんを始め、山梨さん、早川さん、柳瀬さん、近藤さん、それに静岡同窓会東京本部の深沢さんと西田さんを含めて7名、静大が関西支部長の岩本を始め、五道、溝端、加藤、山端、竹山、田中、濱本、それに岐阜の望月さんも加わって9名、関西静高会のご家族2名も含めると、総勢18名の大集団（？）となりました。

寮歌祭本番では、静高は11番目の登場とな

り、シューベルトの「野バラ」をドイツ語で唄いながら登壇し、関西静高会の早川さんから演目の紹介のあと、まず、仰秀寮代表寮歌「地のさざめごと」を序詞、1番、3番、5番を唄い、寮歌「時じくぞ花」の1番、寮歌「ゆたけき胸の」の1番を唄って、最後に、ストームソングの「富士の白雪」を唄いながら降壇しました。舞台には、静高の姉妹高である旧制浦和高校の皆さんも加わってくださって、8分間の持ち時間を力一杯唄い切り、静高ここにありとの意気を全国の元寮生に示した次第です。

出演後、昼食を取りながらの懇親会では、応援してくださった浦和高校の皆さんから、「静高は若い人が多くていいなあ」とうらやましがられて、我々静大も少し胸を張れました。

関西支部としましては、今後とも、こうした催しなどを通じて、関西静高会との交流を深め、静高・静大の別なく、同窓会活動を大いに発展させていきたいと思っております。

映画「日本の青空」好評、全国上映へ —支援ありがとうございます。

映画「日本の青空」を支援する静岡の会
事務局長 上田克巳（文理9回）

日本国憲法施行から60年、5月には改憲のための「国民投票法」が国会を通過し、憲法への国民の関心が高まっています。現憲法の草案となったGHQ案には明治の自由民権運動以来の流れを受け継いだ在野の「憲法研究会」がまとめた「憲法草案要綱」という手本がありました。その草案を中心となってまとめたのが元静岡大学教授鈴木安蔵（憲法学・昭和26年～42年）でした。日本国憲法の間接的起草者ともいえる鈴木安蔵を中心とした憲法の成立過程がNHK・E TV特集「焼け跡から生まれた憲法草案」（07、2、10）として紹介されました。地元「静岡新聞」は昨年来「青空は見えたか、鈴木安蔵とその時代」「斬新な憲法案があった」「GHQに多大な影響」等々特段の扱いで報道しました。

この鈴木安蔵を主人公とした映画「日本の青空」が企画され、昨年7月にこの映画の製作・上映を支援する静岡の会（代表・佐藤博明静岡大元学長）を発足させて活動をすすめてきました。昨年12月発行の本「岳」46号で映画「日本の青空」製作支援のお願いをしたところ、早速の協力をいただき、70名の方よ

り742,000円（学生新聞「元気会」分32名267,000円含）という、心のこもった大きな協力をいただきました。みなさまより寄せられた熱いメッセージひとつひとつには感動させられました。映画には「静岡大学文理・人文学部同窓会有志」「静岡大学学生新聞「元気会」有志の会」としてクレジットタイトルに掲載されています。

また静大同窓生関係としては製作委員（1口製作協力券100枚、10万円）に英文科有志の会、文理学部女子学生OGの会、文理学部2回生「憲法ゼミ」参加者一同、文理・人文学部日本史・考古学OB・OGの会、その他個人名等での直接、間接的な多大の協力を「支援する静岡の会」に寄せていただきました。全国各地でも映画「日本の青空」への静大同窓生の支援・協力の動きが伝えられています。みなさまの支援にあらためて心から感謝いたします。

映画「日本の青空」はこの春に完成し、好評のうちに全国各地で上映がすすめられています。恩師、鈴木安蔵先生の映画をより多くの方々に観ていただけるよう願っています。

憲法学者・鈴木安蔵氏プロフィール

1904年 福島県小高町（現 南相馬市小高区）に生まれる。

京都帝国大学文学部哲学科に入学。その後社会の矛盾に対抗するため、経済学が必要との考えから同大学経済学部に移転。最初の治安維持法違反事件「学連事件」で検察され、自主退学。以後憲法学、政治学の研究に従事。民衆の立場に立つ憲法学を成立させる。

1937年 衆議院憲政史編纂委員
1945年 「憲法研究会」案の『憲法草案要綱』を起草
1951年 学生からの熱烈な要請で、静岡大学文理学部教授に迎えられる。その後 愛知大学、立正大学で教授

1962年 日本民主法律家協会・憲法委員会委員長
1965年 憲法改悪阻止各界連絡会議代表委員
1983年 逝去（享年79歳）

※鈴木安蔵氏の功績や『憲法草案要綱』についての参考文献のご紹介：小西豊治著『憲法「押しつけ」論の幻』（講談社現代新書）

製作協力券の普及にご協力いただき、誠にありがとうございました！
静岡県では、合計93口・9,300枚の製作協力券を普及することができました。

「日本の青空」へのご協力ありがとうございました。

卒業生の方から寄せられた寄附金の振込用紙の通信欄からは、鈴木先生や「日本の青空」に対する熱い思いが伝わってきます。そのいくつかをご本人の同意を得たうえで、紹介します。 山口 茂（人文1回）

☆中村 厚 新潟県三条市（文理12回）

私は、文理第12回（昭和39年3月）法学・政治学専攻卒業者ですが、鈴木安蔵先生（安蔵（あんぞう）さん）から憲法の講義を受けました。このたび、映画「日本の青空」に先生が主人公として、製作・上映されることになって、当時の講義の先生の話しぶりがな

平成18年度2回目の魁寮会開催 ～東海地区「魁寮の会」開催～

文理7経 水谷達仁

平成18年度2回目の東海地区「魁寮の会」が忘年会を兼ねて平成18年12月16日（土）高層ビルの建設ラッシュ著しいJR名古屋駅前の居酒屋「たい信」で開催されました。

会は河合会長（文理2）の挨拶、市村特別会員（旧制静高）の乾杯の音頭で始まり盛り沢山の寄せ鍋料理を味わいながら進められた。参加者の近況報告では文理1、2回生の先輩から東海三県在住の静大文理1、2回生が、ここ名古屋の地で懇親会を兼ねた「ワンツウ会」と称する同期会を立ち上げたことが報告され、多くの参加者を求めて、既に2回開催され女性の同期生も数名参加されたそうです。

時の話題では憲法改正、教育基本法改正問題など憂慮すべき傾向が強まり加えて益々格差社会の進展により先行き不安が増大しているとの声が多く出されました。また年々欠席通知に病気による不参加が増加してきていることも心配であり、お互いに健康だけでは十分気をつけましようとして誓い合いました。

今回の魁寮会は常連組の欠席が多く参加者



（出席者）
亀井松壽（文理2）、河合俊孝（文理2）、内山賢治（文理2）
中村幸夫（文理2）、間瀬 晃（文理5）、水谷達仁（文理7）、余川彬夫（文理11）、和田孝宣（文理12）、鈴木 徹（文理13）
市村平一郎（旧制静高）

合うのは本当に楽しいひとときです。11月下旬には第4回目の会を予定しています。皆さんの参加をお待ちしています。

※第2回目の会を開く少し前に、文理1の山岡伊織さんがお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈りいたします。

第2・3回と続く名古屋「ワンツウ会」

文理2・河合俊孝(名古屋ワンツウ会発起人代表)

名古屋「ワンツウ会」では、昨年11月9日に結成後2回目の会合を、続いて第3回目を本年5月10日に、恒例となった名古屋駅前の「たい信」で開催しました。

第2回は静岡の松永晶子さん(文理2)を加えた15名の参加、第3回は横浜の東儀千鶴子さん(文理3)を加えた13名が参加し、昔話に花を咲かせました。旧友達と青春の日々を語り

つかしく思い出されます。1/29の朝日にも記事がありましたが、先生のことが広く伝わるのがうれしいです。講義を受けたときのテキスト「憲法学原論」（最近別の人から静大図書館に寄贈されたとの事（高橋さん（女））を持っています。

☆**鈴木 徹** 名古屋市中川区（文理13回）
「日本の青空」製作協力カンパ送ります。公開を楽しみにしております。

☆**神谷幸男** 神奈川県海老名市（人文5回）
「日本の青空」ぜひ見たいです。鈴木安蔵先生の果たした役割をもっと知りたいとも思っています。

☆**堀田雅男** 三重県桑名市（文理15回）
防衛庁の「省」への格上げ、教育基本法の「改正」等、保守政党の長年の念願だったはずの大事がいと簡単に、あっけなく国会を通る世の中に薄ら寒いものを感じます。今、戦争のできる国へと憲法9条の改悪が画策されていますが、次世代のためにも何としてもこれは阻止しなければと焦慮していた矢先、同窓会誌で「日本の青空」の映画製作のことを知りました。少しでもお役に立てればと思い、送金します。

☆**戸崎延子** 横浜市金沢区（文理11回）
教育基本法が全くおかしなやり方で改悪さ

静岡市で8/11～8/24上映(サールナートホール)決定!!

「供養とスケッチの 四国八十八ヶ所寺遍路旅」

小林五郎（文理9回）

「熊野古道に行く」の連載を終えてから、沢山の人から続けて欲しいと声をかけられました。こんなに沢山の方々から読んでいただいているとは全く考えておりませんでした。私の文章で楽しんでいただき、また定年後の生き方の一つの参考になればと思い、63歳の時の記録「供養とスケッチの四国八十八ヶ所寺遍路旅」を抜粋して連載することにします。気軽に読んでいただけたら幸いです。

42日間に及ぶ長旅で全文の連載は無理ですから、4つの県で各2日間計8日間に4回に分けて紹介します。こんなわけで前後の脈絡は欠けますがご了承下さい。ご存知かもしれませんが、四国お遍路とは四国の4県に点在している弘法大師ゆかりの寺を巡る旅で、全長は1400キロ、寺から寺への距離は短い所で2キロ、遠い所では70キロになります。大概はバスツアーでのお遍路になりますが、全コース歩く「歩き遍路」もかなりあります。私は2000年の9月13日に四国入りし、翌14日から歩き始め10月25日結願しました。

9月16日

3日目は5時半起床、7時には宿を後にする。藤井寺を打ち終えていよいよ山道に入る。

入口に焼山寺まで12.4キロの標示があり、山道の12キロは辛いし充分1日コースだ。意を決して登りはじめる。山道は2日続いた雨で濡れているが、谷川状態にはなっていない。それに意外に身体が軽い。アスファルトの固い道より岩や木の根でゴツゴツした山道の方が疲れにくい、変化があって楽しい。永年山に親しんできたせいだろうか、心配していた程ではなくスイスイ歩いてしまう。

この調子この調子。上り下りを何回かくり返し、進中番外壺場の長戸庵、大師手植の大杉とその根元に建つ3m近い大師像を通り過ぎ、山中の閑静な場所にひっそりと建つ柳水庵にさしかかる。この宿は数人しか泊れない小さな遍路宿だが、五右衛門風呂がつとに有名で、何回かお遍路している人はここで泊

れ、また日本国憲法にも改悪の手がのびています。この国の理想はどうなったのでしょうか！私たち世代の人間は死ぬまで戦争反対を語りつづけます。「女子学生の会山本美千代さんによろしく」

☆**奥東富子** 静岡市葵区
夫奥東保は18年6月8日亡くなりました。元気でありましたら映画「日本の青空」の完成をどんなにか喜びことでしょう。鈴木安蔵先生に学びました。文理第6回卒業です。

☆**横山美智子** 横浜市旭区（文理10回）
一口はとてもムリですが、私としては6万の年金からの出費です。地域の九条の会でも「日本の青空」製作協力券というものが発行され、庶民の浄財が集まっています。

☆**兵藤 忍** 愛知県知立市（人文1回）
人文第1回の卒業生です。丸山先生の憲法ゼミで学びました。当時の教養課程で鈴木先生の講義を受けました。「映画」の成功を切望いたします。

☆**森 有子** 東京都中央区（文理4回
弁護士・安蔵ゼミ）
「日本の青空」の成功を願います。鈴木安蔵先生の憲法に対する足跡が広く知られることは大きな喜びです。

のを楽しみにしている由。空には夏雲が流れ、晴れ間から暑い日差しがもどってきた。近くの山林ではツクツクホーシが鳴いている。道は一旦谷底まで下りる。2日続いた雨にも拘らず清らかな水が岩をぬって流れ下っている。再び上り坂、枯れた杉葉が厚く積み重なりクッションになっているゆるやかな上り坂の山道を延々上る。途中で昼時になり、宿の主人が朝早く起きてつくってくれたおむすびをいただくことにしてリックから出すと、バックに手紙が輪ゴムでくくりつけられている。「徳島でしか味わえない人々とのふれ合い、思いやり、親切、荷物にならない思い出一杯リックにつめてお帰り下さい云々」と走り書きされている。平静心るとき読めば何の変哲もない文章なのだが、こまやかな気配りをして接待してくれたご主人の人柄や、このおむすびもお接待で用意してくれたものだし、何よりも、痛む体で、誰一人いない山奥を一人旅している身にとっては、それは心の奥底からジーンと浸み透ってくるメッセージなのだ。人の心の温かさをしみじみと感じながら食べた忘れられないおむすびでした。



（焼山寺より）

比較的元気な私には、この程度の山道は言われている難所とは程遠く、日本平のハイキングコースを歩く気分为上りきり、13時半過ぎには焼山寺に着く。有名なだけあって、バスやマイカーの団体客が何十人もひしめき合

い次々に参拝している。バスの団体さんは本堂前に整列して声高に読経する。おそろいの服装で並び、カスタンネットのような小さな木魚を打ち鳴らし、独特の抑揚をつけた節まわしでお経をあげる。後で判ったのだが、近畿ツーリスト等の旅行会社が競争でお遍路バスを仕立てて四国に送りこんでいるらしい。

当然ガイドつきで、この人達があの特有の節まわしの読経を演出しているようだ。お遍路の納経帳も一括とりまとめて記帳してもらい、遍路さん達はそろそろと後について歩くだけだ。お寺の坊さんのお経はあまり抑揚がなく平板で流れるような感じなので、お経とはそんなものかと思っていたら、突然大集団が現われ、バカ大きい声で木魚を打ち鳴らしての読経だ。私なんぞは小さい声で遠慮しいしい唱えているからたちまち打ち消されてしまい、自分がどこまで唱えたのか判らなくなってしまう。その都度最初からやり直す始末で、`あれ？ いまどこまで唱えてたっけか？、慣れないお経は途中でと切れると後がつかなくなりやり直すことしばしば。これじゃ耳に栓でもしないとたまらない、そんな思いがしてくるのだ。今でもあの節まわしは決して好きにはなれないが、耳なれてくると、静かな山寺にこだまするあのバカバカという木魚の音と抑揚のある読経は四国お遍路の風物詩の一つかと思えるようになった。個人の歩き遍路は私服で菅笠もつけたりつけなかったりで、大きなリックを背負っているのが特徴だが、バスの団体さんは同じスタイルでないと不安になるのだろうか、判で押したように皆同じかつ好でリーダーに従って同じ行動をする。いかにも日本的だと思う。

宿に着くとまず洗濯、そして日記の整理とスケッチの色づけ。今夜の泊りは焼山寺の宿坊、同宿者は7人。前日雨の中で会ったご夫婦、東京、大阪方面からきた人もいてにぎやかだ。12畳間に2人の相部屋で、相棒は九州からきた40才代のサラリーマンの加茂さん。

ふすまで仕切られた隣室が先程からにぎやかで、廊下を歩く音がドタドタしていて歩行困難の様子。話し声から判断すると、足の状態が最悪で、これ以上歩けないから、明日帰る段取りをしていて、自宅への連絡やタクシーの手配を忙しそうにしている。他人様のことは干渉したくないのでスケッチの色づけに専念していたのだが、同室の加茂さんがリックから荷物を出して隣室に出向いていった。足を痛めていた女性が何度もお礼を言っていたから多分傷の手当てをしてやったのだろう。

加茂さんは薬局を経営している薬剤師さんで、リックの荷の半分は薬品関係だという。

本人も足の裏のママを針先でつぶして薬をつけたり、身体のあっちこっちにペタペタ絆創膏を張りつけている。私はこうしたものは全く持ってきていないのだが、絆創膏を1～2枚いただいてはりつけてみた。東京から来た女性は足裏と踵にできたママが破れて赤肌がむき出しになっている。大変な激痛で、これ以上険しい山道を歩いて旅することは出来そうにない。加茂さんが鎮痛剤を調合し手当てをしてやったら痛みも大分おさまって歩けるようになったみたい。こんな一件で人間関係の輪ができ、夕食は隣室の人も加わり4名でにぎやかに始った。同室の加茂さん、大騒ぎしていたのは東京の橋本さん、姫路市からきた宮西さんの4名。これにもう一人東京の金浜さんがいづれ合流することになっているのだが、6時を過ぎても姿が見えない。

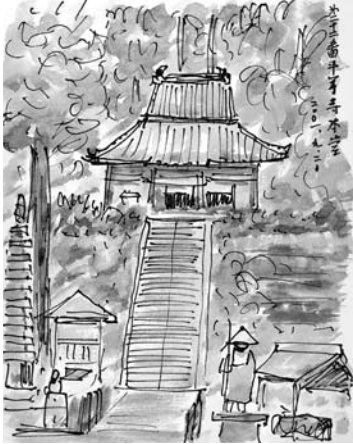
実は金浜さんと宮西さんとは安楽寺から一緒に、昨夜もさくら旅館で同宿しビールで乾杯した仲なのである。今夜また焼山寺でお会いしようかと約束して宿で別れたので来るはずなのだが外は既に真暗だ。あの深く昼でも薄暗い林の山道を果してここまでたどり着けるのか。私は`昨日もかなり疲れているみたいだったから、焼山寺をめざしたが、途中日没であの柳水庵で泊ったのではないかな、と云うと宮西さんは否定し`いや、絶対ここ

まで来るはず、今から私が迎えに行こうか、と言いだす。そうはいつでも皆疲れているので誰一人動こうとはしないのだが。途中まで待っていたが待ちきれず食事をすませた7時すこし前に入口で人声がし、重い足を引きずるようにして金浜さんはやってきた！

あの暗闇の山道をたった一人で懐中電燈頼りに歩いてきて、山門の灯りを見たときは涙がこぼれたとしみじみ語った。皆でビールで乾杯し金浜さんの無事をよろこび合った。

9月21日

4名は朝一番平等寺まで送ってもらい、徳島県最後の1日がスタートする。土井さん夫婦は今夜が最後になるので海岸近くの宿に泊りたいとの希望があり、私達は寺の近くを考えていたので記念撮影しましようとして4人並んで山門の前で撮る。私はカメラを持っていないのでこの写真は貴重な一枚になった。



（平等寺本堂）

平等寺から薬王寺へは高知県寄りに一気に南下する。距離にして21キロで楽な行程だが室戸から高知に通じている国道55号線歩くので、激しく往来する大型車に身をさらすことになる。その上トンネルが多く、歩きはじめて1時間にトンネルを4つ越えた。今まで1週間歩いてきて交通量の多い国道のトンネルは初めての体験。トンネルの歩道は狭く側溝中しかない。照明は暗くて中央部では足元が見えず手探り状態になる。壁面を手でこすりながら文字通り必死の思いで歩く。問題は車だ。小型車はまだいいのだがコンテナをつけた大型車や大型ダンプは最悪。今回初めて判ったが、後から抜かれる瞬間、一瞬迫ってきた車の方に引っぱられ、通過した瞬間強烈な追い風で車に引きこまれる。丁度ムチ打ち状態になるのだ。歩いているとふらついて車道に落ちてしまうので、立ち上り両脚をふんばって通過するのを待つ。耳をつん裂くごう音と排ガスの中を何百mも、時には2キロ近く歩くのは命の縮む思いがする。

やっとの思いで抜けると、自転車を止めてのんびりと食事をしている2人組に会う。定年組で、2人は途中で出会い一緒に旅をしている由。食べていた焼き鳥を1本づついただき、代りにミカンをお返しして`お互いに気をつけて、と別れた。薬王寺には13時に着いた。

山門には大きなわらじが奉納されている。入るとすぐ33段の女厄坂と42段の男厄坂、それに61段の還暦の厄坂があり、どの石段にも両端に靴がすべりそうになるほど1円玉が置かれている。厄年の人が年の数だけ1円玉を置いて厄除けをするからだ。「日和佐のおやくっさん」として親しまれ、厄除けの寺として広く知られている。また近くの日和佐海岸はウミガメの産卵地として有名で、境内からその入江が一望できる。

今夜の泊りは橋本さんの希望で「善人宿はしもと」に決め境内より電話して予約を入れた。男の人が電話口に出て「室戸岬方向に500m来ると麦飯の看板が出ていますが、そこになります」という。現地に行くと2階建のレストラン風の建物はあるが宿らしき看板がない。

1階は仕出し屋風で土産物も売られている。主人に訪ねたところ「あのバスに泊って下さい！」とのこと。え！？あのおんぼろバス

大学だより

「大学生活」

人文学部経済学科2年 比屋根麻希

地元、沖縄を離れ、ここ静岡大学に進学して、もう2年という月日が経つと思うと、とても早く感じます。大学生活は、高校とは全く違い、親元を離れ一人暮らしをしなければならぬし、家のことはもちろん料理だって、洗濯だって自分ひとりでやらなければなりません。最初は面倒くさいし、嫌だなんて思うことが多々あったけれど、今では、慣れてきました。夏休みのような長期の休みに家に帰ったら、母が洗濯しているのを見ると、無意識に手伝う様になったくらいです。この2年で私自身変わったと思います。さきにも言ったように、母の手伝いだって前の私からしたら自立という大きな一歩だと思うし、何でもかんでも親のいうことを聞くだけじゃなくて、自分の人生、これからのことをとてもよく考えられるようになりました。

2年生になり、遠く離れた沖縄から、ガミガミと電話やメールで親に色々いわれることだって、前ならうるさいなあって思っていたのが、例え、ガミガミとうるさいと感じてしまってもかもしれないけれど、私の親ほど、こんなに私のことを思っている人は居ないぞって、ほんの少しだけど電話口で思えるようになりました。私の家族は、少し変わっているかもしれませんが。よく他の友達から、女の子だから、心配で地元の大学に進学しなさい、といわれたなんて聞くけれど、私の親は、静岡大学に進学することに心よく賛成してくれました。小さい時から、色々な国々へ連れていってもらったり、もっと自分の目で知らな

大学に入った全ての人に聞いてみたいこと。

言語文化学科1年 田中大樹

「あなたは、生きていますか？」

春が来て桜が咲き、夏が来て蝉が鳴く。秋が来て風がすすきを揺らし、冬が来て雪が積もる。そのような一見意味があるようで、実は意味などまったくない世界を楽しいと思えるほどに、みなさんは生きているのでしょうか。大学の四年間にかかわらず、全ての時間は何をやっても何もしなくても過ぎていきます。そんな自由と呼ぶに相応しい時間をみなさんはどのように過ごしたいですか。

勉学に勤しむ。愛を育む。心身を鍛える。この四年間にはありとあらゆる生き方がありますが、その中のものは何一つとして強制されるものではありません。それは裏返して言えば、私たちは自分で思ったとおりの、手にしたいと願った道を選べるということです。さらにそれは、常に自分が一番良かれと思っただ道を選ばなければならないということです。そして、選んだ道を実現させるために、邪魔なものや雑ざ倒し、大切なものは命を賭して守り抜かなければならないということも意味しています。どんな道を選ぼうとも、誰に反対されようとも、自分で生きた道は誰にも触ることなど出来ない最高の宝物なのです。

人は生きている限り生きなければいけない。生きながらにして死んでいる状態などあってはならないことです。朝起きて、ご飯を食べ、なんとなく講義を受け、生命活動を持続させるためにバイトをして、夜になったら寝る。そのような生活を客観的に見つめる自分がいて、こんな生活続けてはいけぬ、そう思いながらも何もしない、何も出来ない。次第に、今楽しければそれでいいとか未来に希望が持てないという二ヒリズムに出会い、そしてその思想を弄ぶようになり、格好を付け始める。みなさん、そのようなこ

と歩き出した。さようなら！出会いは嬉しいが別れは淋しいもの、いつまでも手を振って見送ってくれた。`さようなら愛さん！、

室戸岬まで75キロの標識を見上げながら`よし歩くぞ！、と気を引きしめる。これだけ歩いてくれば当り前のことだが、依然足の爪は痛いし脚のあちこちの筋が痛む。この痛みがもっと激しくなって歩けなくなったらその時は旅も終りだなんて弱気の虫もときどき頭をもち上げてくるが、その時はその時だ。日和佐トンネルを越えると牟岐町に入り、再びトンネルをぬけると突然前方が開け海原の広がる海岸線に出た。`うわー海だ、荒々しい海に感動し早速一枚スケッチする。ここは内妻の海で四国入りして初めての海に出た。徳島県には23ヶ寺あるが全部山間地であって海岸近くにあるのは最後の薬王寺だけ。静岡にいて海は見なれているが、山を歩いてきて久しぶりに大海原を見ると矢張り感動するし開放感がある。小さい入江と岬をいくつか通りすぎやがて海南町から海部町に入ってきた。結構にぎやかな街並みである。町のおばあさん達がテントを張りお遍路に湯茶の接待をしている。そこでお茶を飲んでいた初老の遍路さんが手招きして`一服どうですか、と声をかけてきた。`ではお茶でも一杯いただきませ

るか、と椅子に座ると、あたたかいコーヒーを出してくれた。手招きした人は私と同じ年位の人で、自転車でお遍路をしていて、これ以降何回となく出会うことになる。コーヒーを出してくれた人達は80才近いおばあさん達で、こうして毎日お接待をしているのだろうか、ありがたいことだ。再び歩き出すと間もなく手頃な休けい所があった。屋根つきの立派な建物で三方は板張りで木のベンチが壁面にあり、これならシュラフで充分泊れる。少し休けいすることにし、クツとクツ下をぬいで痛む足指を解放してやる。時々こうしてクツ下まで脱いで足にも思いやりを示してやらないと反抗されてしまう。体は一体だが各々が自己主張するのでいろいろと気配りが大変だ。時計は12時を指している。歩き出すと路上には室戸まで50キロの標識がでていて既に25キロ歩いてきたことになる。やがて入江が内陸部に深く入りこんでいる穴喰町を通過。川のような入江は波もなく鏡のように静か。イカダの上に屋根をつけた釣小屋らしきものが水面にいくつか浮いている外は漁船の姿は見当たらない。水床トンネルを越えるといよいよ目指してきた高知県入りだ。トンネル出口近くに民宿があるのでまずは宿を確保しようと玄関に入って家人を呼ぶが返事がない。午後の3時では早すぎるのか。

仕方ない、別の宿を探すことにして歩き出すと間もなく東洋町の白浜公園に出た。美しい海岸線はそのまま公園になっていて夏は海水浴場になるのだろう。公園の一角には脱衣所やシャワールーム等の町営施設ができている。

よし今夜はここで野宿しようかと決めると早速脱衣所で汗みれの下着を着替えジャブジャブ洗面所で水洗いして、手持ちの物干しヒモを公園の木の枝にかけて干した。午後3時の日差しは強いのですぐ干くだろう。さすると、暗くならない内にスケッチを整理しておこうと道具をとり出して色づけをはじめると公園に散歩に来ていた中年の男の人が近づいてきて`お遍路ですか、と声をかけてきた。`歩き遍路で今日ようやく高知入りしたんですよ、と通り一辺のあいさつをすると`以前にもお遍路さんを泊めたことがあるんですよ、よかったです、ここで泊まると決めていたのでお断りしようと思ったが、せっかくなのでお接待なのでお言葉に甘えて泊めてもらうことにする。彼の家は車で数分のところにあり、奥さんと2人暮らしで、決して豊かな生活ではなさそうだが心豊かに生活している様子がかがえた。お蔭様で思い出深い一夜をすごすことができた。縁とは不思議なもので、彼は私の妻の弟と同じ大学の同級生で四年間一緒に学んでいたことが判った。感謝。

が宿なの？6千円も出して何であんなところに泊るの？私の不審な顔を見ながら主人は「宿賃はいただいておりません。数年前にマイクロバスで始めたんですが、ここ数年野宿する若者が増えて昨年あのバスにとりかえたんです。10人位は泊れるでしょう。夕食は用意できたら連絡しますからとりに来て下さい」

善人宿とは食事付きの無料接待宿のことで、ここで初めて知る。感激することしきり。

早速バスの中に入れてもらう。フロアーは前後2つに仕切られていて、後部のスペースには布団が無雑作に山積されている。運転席側にはテーブルやコーヒー、湯のみ茶碗が雑然と置かれていて、いかにも野宿者が勝手に使っているといった風情だ。元山男にとっては旅館もいいがこんな雰囲気もまたいいものだ。

更にうれしいことには、薬王寺のすぐ横に千羽温泉という本物の温泉があり五百円で入れることだ。`やった！、そんな思いでいそいそと温泉めざして出かける。大きな湯舟につきりほっとひと息いれると、何故か目頭が熱くなった。

今夜の泊り客は私達2人と短パンにひげもじゃの大阪の男性、それに東京から来た20代の2人の女性の5名。まずヒゲさん。自称日雇い労働者でヒゲはのび放題。1週間近く野宿をしていて風呂にも入っていないので、すえた悪臭で近づくと呼吸困難になる。短パン姿で、ヒョコヒョコ歩く好人物だ。女性の1人は大きなショイコ状のリックに10キロ以上の荷を詰めていて旅慣れている感じ。他の1人は素足にサンダルばきで、鼻緒のところ以外は日焼けして真黒な足をさらして、顔も日焼けし、たくましい女性。彼女は前夜鶴林寺を下りたところで野宿してきたといっていて、2人共八十八ヶ寺を巡るのだという。負けそう！

この4日間一緒に歩いてきた相棒の橋本さんかというと、ビール3本もかかえて「今日は最後の日だから1人で乾杯」とかいうてご満悦。足裏をマメだらけにしていたから「徳島市で帰京するところ、小林さんと一緒に歩かせてもらい徳島県だけは無事お遍路できました。彼岸花は忘れても小林さんは絶対忘れません」なんて酔いも手伝ってか同じことを何回もくり返していた。本人も認めるとおり初めての長旅で、しかも乗物を使わず深い山道を地図を片手に歩きつづける遍路旅は大変だ。それにあの足裏のマメ、よくぞ私のスピードについて4日間歩きつづけてきたものだ。本当にご苦労様でした。橋本さんの語るには家を出る時周囲の人達から`せいぜいもって2日か3日、すぐ帰ってくるわ、と言われ、「そんなこと言うなら、もし徳島県全部歩いたら10万円よ」とカケをして旅に出てきたようで、`これで10万円はいただきね、と喜んでた。女性陣は夜中の10時過ぎまで楽しげに騒いでいたが、私は9時には布団にもぐりこむ。明日からいよいよ本格的な一人旅がはじまるので一種の緊張感がよぎる。今迄知り合った人達は私を除いて皆徳島県で打ちどめだ。でもこのバスに泊っている4名は高知に向うので、まだどこかで再会できるかもしれない。

翌朝短パンのヒゲさんは4時頃起きて暗い中ごそごそ動き出した。昨夜はひとしきり激しく雨が降り心配したが朝方には止んだ。やがて5時、まだ明けやらぬ暗闇の中をヒゲさんは`じゃお先に、といっけて出かけてゆく。

私は昨夜の夕食の残飯とコーヒーを一杯飲んでからヒゲさんの後を追うことにした。2人の若い女性はまだ眠ったままだ。橋本さんは6時50分の便で帰るといい、別れ際に薬王寺のお守り札を渡し、`いろいろ本当にお世話になりました、と握手を求めてきた。`いやこちらこそ一緒にさせて頂いて楽しい旅ができました。次は是非高知までチャレンジして下さいネ。と最後の別れをかわし、雨上りの、一寸ひんやりする朝もやの中を一路南に向っ

大学に入学して

人文学部法学科 1年 瀧内 郁

大学生になって私の生活はこれまでの生活とはすべてのことが大きく変わりました。その中でも一番大きく変わったと思われることは学習の仕方です。高校までは、教科書に書いてあることや授業で先生に教わったことをとにかく覚えることが主な勉強でした。しかし大学では、講義の内容や教科書の内容に対して自分はどう考えたのかを自分の言葉で表現することを求められることが多くなりました。これまでの私は、授業の内容やテーマに対して自分の考えを持つということがなく、とにかく自分の考えを文章にするという作業が苦手で、たとえほんの少しの感想文や小論文を書いたりするだけでであったとしても、とても苦痛でした。それが急に大学では自分の意見を持つということが不可欠となり、戸惑いを覚えずにはいられません。しかし、勉強方法が変わってよかったと思うこともあります。高校生の頃は勉強とは受験のためにやらなければならないもの、好むと好まざるとにかかわらずやらされるものという思いがありました。しかし大学では授業を自分で選ぶことができ、自分の学びたいことをとことん追求できます。そのため、勉強やいままで知らなかったことを知るということは楽しいことなのだという、毎日新しいことを学べるのが楽しみだった小学生や中学生の頃のような気持ちを思い出すことができたような気がします。今のこの気持ちを忘れずにこれからもっと多くのことと学んで、自分の考えをちゃんと自分の言葉で表してみんなに伝えられるように頑張りたいです。

静大祭を楽しむ方法

人文学部社会科学部人間学コース 3年 石田光羽

静岡大学に入学して3年目、「この2年間何をしてきたか？」と問われれば、私の答えは「静大祭を作ってきた。」である。私は静大祭実行委員会のメンバーだったのだ。(実行委員は2年で引退となる。) これを読んでくださっている方の中にも、静大祭実行委員会のOB・OGの方がいらっしゃると思う。静大祭実行委員会は健在で、今日も祭を作っています！ 実行委員会の仕事は大きく分けて4つある。1つめは静大祭当日に行く企画を考えること、2つめは静大祭についての案内をすること、3つめは大学構内を飾りつけること、4つめは静大祭で発表や出店をしたいという人達を取りまとめること。どれか1つが欠けても静大祭は作れない。私たちは担当に分かれて仕事をし、週に2回の会議で、それぞれの報告や意見交換を行う。学部も学年も生活事情も異なる人たちが、授業もアルバイトも他のサークル活動もある中で、この時間だけは、静大祭について真剣に議論するのだ。来場者にもっと楽しんでもらいたい、来場者がもっとくつろげる工夫はないか、部やサークルの発表の場をもっと広げられないか、もっと、もっと、もっと……。こうして静大祭は、過去の問題の解決と新しい試みによって、小さいながらも毎年進化していている。そして、「静大祭を作る」という1つの共通項が、バラバラな個人をつなぐ役目を果たすことを、私はすごいことだと感じる。けれど私たちは、仕事だけの付き合いでは決していない。休日には案内物や装飾物を製作するし、他の部やサークルでもそうだと思うけれど、空き時間には部室(私たちの場合は実行委員会室だが)に自ずと集まるようになってくる。そうなるともう、毎日のように顔を合わせるようになるのだ。性別や、出身や、学部といった表面的なものを超えて、真正面から相手とつきあえるようになっていく。まるで兄弟のように心を許すことができた。ふざけあったり、語り合ったり、思いつきでバカなことをしたり、本当にいい仲間と出会えたと思う。私たちはみんな

また、長い間住んでいた地元を離れて一人暮らしを始め、最初のころは一人ですべてのことをしなければならぬということに慣れていないため不安になることもありました。しかし、いつもそばで支えてくれる友達に恵まれ、そんな不安もすぐに消え、今は一人で暮らすことの楽しさを実感しています。前は上手くこなすことができなかった家事もだんだん手際よくできるようになってきました。よく晴れた休日に早起きして洗った洗濯物を干す時や部屋中を掃除し終えたときとても充実感を感じます。 私は今、レポートや予習や復習そのほかにもやらなければならないことがたくさんあり、手帳を開くと予定がいっぱいで毎日とても忙しいです。しかし、とても充実していてそして何より楽しいです。時には将来の夢と今の自分の実力のギャップを実感し、落ち込むこともあります。そんな時でも、なんでも相談に乗ってくれる友達や知識が豊富で頼りになる先輩達のおかげですぐに立ち直りまたこれから頑張ろうという気持ちになることができます。

大学での四年間は、自分の将来の目標のため積極的に勉強にはげみ、また、今までとは違う新しいことにも挑戦し視野を広げ、より多くのことを学びたいです。そしてひとつひとつの出会いや、一日一日の時間を大切に、昨日の自分より今日の自分が、今日の自分より明日の自分が少しでも成長している、そんな実りある充実した毎日を過ごせるように努力したいです。

な淋しがり屋で、ただこうして笑い合える仲間が欲しかっただけなのかかもしれない、と考えることもある。お祭を作ることを口実に、誰かと何かを共有したかっただけなんじゃないだろうか。それほど、「実行委員会」という役割的なものを超えたつながりを持つことができた。代替わりをして、私たちの手で静大祭を作ることがなくなっても、このつながりは切れていない。これからも、自分から切らない限りは続いていこう。いつまでも「あの時はしんどかったよねえ。」などという話を、お酒を飲みながらするのだろう。

高校時代の恩師にもらった言葉で「楽しいことは苦しい。苦しいことは楽しい。」というものがある。この言葉で大切なのは後者。大変なことの中にこそ、それを経験したものにか味わえない楽しさがあるということだ。私にとつての委員会活動は、正にこの言葉どおりだった。学科での友達に委員会のことを話すと「えー!? 大変だねえ。」とよく言われた。「まあね。」と答えるが、実は心の中ではニヤけている。「この楽しさはわからないんだろうなあ。」と。長時間続く会議も、休日返上の製作活動も、大変さは横にいる仲間の笑い声に吹き飛ばされていく。そして、お祭という非日常の空間を作り出し、支えているという実感。それは、どっきり企画の仕掛け人のような、お化け屋敷のお化け役のような、とてもわくわくする楽しさなのだ。静大祭当日には、来場者の笑顔を見ていたずらっ子のようにほくそ笑んでいる。静大生として発表や模擬店を楽しみ、実行委員として1つのイベントを作り上げた達成感を味わい、そして信頼し合える仲間が隣にいる。静大祭を一番楽しんでいるのは、実は私たちかもしれない。

今年もまた、11月半ばに静大祭が開催されます。同窓会のみなさん、久しぶりに、静大祭に遊びに来ませんか?みなさんの時代から良き伝統を受け継ぎ、そして進化してきた静大祭。必ず楽しい1日となることをお約束します!!

退職された先生

山脇貞司先生

山脇貞司先生は、本年3月をもって静岡大学を定年退職され、このたび本学名誉教授の称号を授与されました。

山脇先生が人文学部に赴任されたのは1974年のことです。それ以来、32年の長きにわたり、本学部の教育・研究の発展のために多大のご尽力をいただきました。先生が赴任された当時の法経学科は、78年に法学科となり、その後、91年の大学院法学研究科の創設、95年の夜間主コースの設置、そして2005年の法科大学院の設置など、この間の法学科の歩みは、文字通り山脇先生の歩みでもあり、その中にあって、先生は、教務・就職委員長、法学科長、評議員、法科大学院支援協会事務局長などの重責を担ってこられました。

先生は、家族法担当教員として、法学科や大学院の専門科目等の講義や演習を担当してこられました。先生の教育への情熱と学生思

いの教育実践は同僚教員の模範であり、先生の担当する家族法ゼミには人気ゼミのひとつでもありました。毎年度末に刊行される山脇ゼミ卒業論文集はその足跡を印したものとなっています。

研究面では、家族法における扶養問題を一貫して追求され、高齢者介護の問題、親権・監護権の問題などについて、多くの研究業績を挙げてこられました。共同研究のリーダーとして編集されたものに、『高齢者生活保障の法と政策』(多賀出版、1993年)、『高齢者介護の政策課題』(勁草書房、1996年)があります。

先生は、社会的活動の面でも、静岡家庭裁判所家事調停委員、静岡県消費生活審議会委員など、多彩な活躍を積み重ねてこられました。

山脇先生、長い間、ありがとうございました。(法学科 三橋良士明)

小桜義明先生

経済学科の小桜義明教授は本年3月末をもって、早期退職制度により退職された。本学への赴任は1974年であり、32年間の長きにわたり、工業政策や地域政策の講義、ゼミナールを担当され、すぐれた人材を育成し世に送り出した。研究面では、地域の産業政策や自治体政策を中心に多くの研究業績を挙げられた。とくに地域自治体の抱える諸問題にたいする具体的な政策提起を行い、地域産業の振興と住民生活の改善に結びつく地域政策の姿を明らかにした。静岡県の各地域自治

体や地域住民との長きにわたる連携・協力関係により、地域社会とともに生きる研究者として、文字通り先駆的役割をはたし、すぐれた地域貢献の実践者であった。就職・学生関係の委員長や学科長などの要職をつとめられ、学内行政面からも静大の発展に寄与するとともに、教育においても、終始、学生の目線に立った情熱的な人間教育を徹底され、多くの学生から慕われる存在であった。

(経済学科 居城 弘)

土居英二先生

静岡大学人文学部経済学科教授で経済統計学担当の土居英二教授が2007年3月で退職されました。土居先生は、1947年のお生まれで、京都大学経済学部卒業後、大阪市立大学大学院経営学研究所を修了され、1979年4月に静岡大学人文学部経済学科に赴任されました。以後28年の長期にわたって静岡大学で教育、研究、社会貢献活動にたずさわってこられ、その間、1992年4月より翌年2月までイギリス・ケンブリッジ大学客員研究員、2004年4月から1年間、経済学科長を歴任されました。担当の講義は、国民経済計算論や産業連関論、統計学、経済統計学などで、とくにゼミは人気が高く、卒業生は200名を超えます。土居先生の研究で特記しておかねばならないことは、消費税導入による影響の各種シミュレーション研究です。この研究は、静岡大学税制研究チームの研究の一環として行われ、研究成果はテレビ、新聞、雑誌等に大きく取

り上げられ全国的に注目されました。また、経済学の諸理論を解説する舞台を、約140名の経済学科学生が、大学祭で演じたユニークな教育実践記録である『舞台の上の経済学』(1985年)も、先生が中心になって指導されたもので、静岡大学の貴重な財産となっています。さらに、先生の多様な社会貢献活動について、ご存知の方が少なくないと思いますが、静岡県や県内の自治体の政策評価研究が代表的です。

研究、教育、社会貢献活動において、それらの深奥に共通する基本的姿勢は、統計学を民主主義の重要な道具として示そうとするものでした。統計学を学ぶ者の姿勢として大事なことです。現在、先生は体調不良が続いておられますが、ご快復を念じております。

土居英二氏は、2007年4月に静岡大学名誉教授の職に就かれました。

(経済学科 藤岡光夫)

新任教官紹介

経済学科 上藤一郎

経済統計学担当の教員として、この4月に着任致しました上藤(うわふじ)と申します。静岡大学には、集中講義で何度か出講させて戴いた経験があり、同窓の皆様の中にはあるいはご記憶の方もいらっしゃるかと存じます。専門はもちろん統計学ですが、もともと統計学と確率論の歴史研究でキャリアを積んできたこともあり、科学史、科学哲学、科学社会学といった分野にも大変興味を持っています。そのため統計学とは別に「科学技術の経済学」というようなテーマを設定することができないか、目下思索中です。

ところで静岡大学に赴任する以前、私は、

三重県の私立大学で17年間教鞭を取ってまいりました。教員としてはちょうど折り返し点に来たわけで、思いも新たに教育と研究に力を注いでいく所存です。同窓の皆様には、後進の育成に是非ともお力添えを賜りたく、今後ともよろしくお願い申し上げます。



書籍紹介

『モンゴルとイスラーム的中国—民族形成をたどる歴史人類学紀行』 楊海英 著(風響社、07年5月刊)403頁

本書は、現代中国の内モンゴル自治区西部(オールドス市、アラシャン盟)、寧夏回族自治区、甘粛省、それに青海省における三年間にわたるフィールドワークの成果を書き下ろしたものである。中国ではこれらの地域を「中国西北部」と呼ぶ。これらの地域の面積は約155万平方キロメートルで、そこには4000万人近い諸民族が住んでいる。現代中国のイスラームを信仰する10の民族も、すべてこの地域に住んでいる。ムスリムたちは間違いなく西北中国の主人公となっている。そのため、著者はこのような「中国西北地域」を「イスラーム的中国」と呼んでいる。日本人は中国西北部の一部分を河西回廊、内蒙古西部沙漠地域、シルクロード青海の道、などと表現する。

遊牧民出身の著者は本書において、モンゴルからの視点に立脚している。モンゴル高原の最南端のオールドス高原から寧夏、甘粛、それに青海など「イスラーム的中国」を眺める、という視点である。モンゴルがどのように中国、特に「イスラーム的中国」と関わってきたのか、その一端を示している。モンゴルはずっとこれらの地域と歴史的に深く関わってきたのである。

清朝の崩壊に伴って成立したモンゴル高原のモンゴル国(旧モンゴル人民共和国)は、きわめて閉鎖的な国家だった。本来ならば、モンゴル人は「イスラーム的中国」について一番情報を持っていたはずである。歴史的にはこの地にモンゴル語系の言葉が話す仲間たちが居住してきたし、チベット高原に入って聖地巡礼を行う時も、この地を通過していたのである。にもかかわらず、モンゴル人は現在、この地域にほとんど関心を抱かなくなった。

モンゴル国のモンゴル人とちがって、中国内モンゴル自治区のモンゴル人たちが、何故、誰によって中国の国民とされてしまったのか。内モンゴルがいかにして中華人民共和国の国土とされたか。このような深刻な問題も実はすべて「イスラーム的中国」の住民たち、特にムスリムたちと関係している。

明朝が築いた万里の長城の西端、嘉峪関もこの地まで到達している。嘉峪関以西を歴世の漢人たちは塞外や西域、草地や荒漠などと表現し、さほど深い関心を示してこなかった。ときおり、雄略を抱く皇帝が現れば、長城以北に兵を派遣して経営にあたることもあったが、それもたいていは短命に終わることが多かった。これは、漢人から見た中国西北部の歴史であろう。

一方、著者が属する遊牧民側からすれば、いわゆる塞外は良質な草原地帯である。この地の東北に位置する賀蘭山と南西に立つ祁連山、阿爾金山には森林が分布し、広大な河谷は夏を過ごすのに最適の地である。賀蘭山と祁連山、阿爾金山の間に続く果てしない平地草原は春と秋、それに越冬放牧に向いている。これらの地からやや南へ進めば、農耕・都市民と交易できる場所もたくさんある。生活するには実に便利なところだった。

今日の「イスラーム的中国」はまた、漠北のモンゴル高原で覇者の争いに失敗した者を積極的に受け入れてきた。そのため、匈奴からはじまり、月氏、突厥、土峪渾、それにモンゴルなど、さまざまな「落ち武者」たちがここへやってきて小さな遊牧政権を建て、漠北の本土と中華世界の両方と交渉し、渡り歩いた。その結果、多くの民族集団が形成された。漠北だけでなく、時には中央ユーラシアからの集団をも受け入れていた。人々は多種多様な宗教を持ち込み、シャーマニズムやチベット仏教、それにイスラームなどが開花した。

満洲人の清朝は、非常に効率よく、これらの地を統治してきた。いわゆる朝貢システムには「西北の弦月」と称されるイスラーム地域もみごとに組み込まれた。満洲人の支配体制は大分、合理的だったが、末端における「イスラームと漢」との齟齬は帝国を体内から蝕み、弱体化に追い込んだ。「イスラーム対漢」という対立軸は何も清朝に原因があるのではなく、そもそも、それは大元王朝が残した遺産でもあった。

西欧列強の進入に伴い、漠北やチベット高原に住む満洲人の同盟者たちは独立を宣言したが、対立軸の両端を担っていた「イスラームと漢」が、代わりに台頭してきた。「イスラームと漢」は、時には対立し、時には同盟を組んで、往昔の満洲人の盟友たちを抑え、中華民国に留めた。その結果、自立を逸してしまった諸集団は、中華人民共和国の一員として、与えられた最小限の自治に満足せねばならなくなった。

人々が共産主義中華人民共和国の残酷な真実を知ってから、相次いで力で意思表示をした。1950年代に長く続いた蜂起である。蜂起は容赦なく鎮圧された。そして、再教育を受けるべくして、10年間に及ぶ「文化大革命」を人々は体験しなければならなかった。現地の住民たちが苦難や辛酸を嘗め尽くしていた時、彼等の故郷には核実験場や衛星基地が作られた。国威発揚は犠牲を強いられたマイノリティの代償の上に成り立っている。これこそ、社会主義国民国家の歩んだ歴史である。

世界は今、大国主導のグローバルゼーション(全球化)と「反テロ」に巻き込まれている。マイノリティにとっては、少なくとも現時点ではどちらも決してプラスにはなっていない。グローバルゼーションは、豊かになる夢をちらつかせながらも、彼らの地から産出するエネルギーを吸い上げている。「反テロ」は、多少の自己主張をすべてテロと拡大解釈される危険性を伴っている。ムスリムを含む各少数民族にとっては、とかく、住みにくい世になっている。

中国西北部のどんな僻地(もし、それらしきが存在するならば)に行っても、必ず、日本のNGOやNPO団体の活動が見られるようになった。日本にとっても、決して遠い世界ではなくなってきた。かの地の人間が何を信仰し、互いにどんな関係で結ばれ、そして相互をどのように認識しているかを考えるのに、本書が役立つことを願っている。

(楊海英さんは社会学科教授 大野 旭さんです)

平成19年3月 人文学部卒業生就職・進学等学科別一覧

	社会学科			言語文化学科			法学科(昼間)			経済学科(昼間)			法学科(夜間)			経済学科(夜間)			計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
卒業生	37	48	85	20	62	82	102	62	164	119	57	176	28	27	55	23	9	32	329	265	594	
就職者	24	39	63	11	43	54	63	45	108	101	47	148	13	8	21	13	4	17	225	186	411	
内	公務員	5	2	7	0	4	4	22	11	33	11	4	15	2	0	2	1	0	1	41	21	62
	教職公務員	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	2
	私学教員	0	0	0	1	2	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	4
進	一般企業等	19	37	56	10	36	46	41	34	75	89	43	132	11	8	19	11	4	15	181	162	343
	大学院進学	5	3	8	2	4	6	10	7	17	10	5	15	0	2	2	1	0	1	28	21	49
	専門学校	1	0	1	1	2	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	3	5
学	留学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	未決定	3	2	5	0	1	1	3	2	5	0	0	0	1	0	1	0	0	0	7	5	12
既就職者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	16	7	1	8	15	9	24		
就職しない	3	0	3	3	9	12	22	6	28	2	1	3	5	6	11	0	1	1	35	23	58	
就職未決定	1	3	4	3	3	6	3	2	5	6	3	9	1	3	4	2	3	5	16	17	33	

※進学その他(編入学生、研究生、科目等履修生、聴講生等)

※就職しない(国家試験・公務員試験・教員採用試験等受験予定者、主婦、結婚予定者等)

第9回旧制静岡高展への出品のお誘い

旧制静岡高展とは、旧制静岡高等学校のOBが、油絵や水彩画など、日頃描いた作品を、毎年秋に東京で発表する展覧会のことで、今年で9回を数えます。

メンバーは二十数名で、最年少でも喜寿を越え、意欲は旺盛ですが、如何せん高齢化の波にさらされているのも事実です。

「美を楽しむ」この会を永く続けるために、旧制静岡高にご縁のある静岡大学OBの皆さんに、ご理解を頂いて多くの方にご参加願えれば、大変有り難い次第です。会への出品を勧誘いたしま

すので、ご遠慮なくお申込下さい。心より歓迎いたします。

今回の第9回旧制静岡高展は、平成19年10月22日(月)より28日(日)まで東京八重洲のギャラリー くぼた4階 で開催します。(東京都中央区京橋2-7-11 Tel 03-3563-0005) 出品作品は1人5点まで。大きさはトータル30号までです。お問い合わせ・お申し込みは下記の通りです。

★原田龍二 国分寺市富士本3-14-28
Tel&Fax 042-502-8288

〈事務局への連絡〉

月曜日から金曜日の10:00～16:00にご連絡下さい。(休日、時間外はメール及びFAXにてご連絡下されば、後で対応いたします) 担当:土屋

個人情報保護

会員の大切な個人情報は、当同窓会の活動以外には一切使用致しません。第三者に開示・漏洩することは一切ありませんのでご安心下さい。

尚、会員データベースからご自分の個人情報データの削除をご希望される方は、下記の『変更データ個人票』にて事務局までお申し出下さい。

会員の皆様へお願い

次の場合には必ず「変更データ個人票」を同窓会事務局までお送りください。

- ・転勤、引越等により、住所が変更になったとき。
- ・自宅の電話番号が変わったとき。
- ・結婚等により、姓が変わったとき。
- ・勤務する会社等が変わったとき。
- ・その他会員名簿の記載事項に変更が生じたとき。

住所等の変更は、速やかにこの用紙に記入の上事務局へお送りください。

静岡大学文理・人文学部同窓会		全部で 件		* データ作成者名	
変更データ個人票		No.		電 話 () -	
変更データ入手日 年 月 日		本部受取日 年 月 日		データ更新日 年 月 日	
個人コード番号		連絡事項			
*文理・人文学部 回 昭和・平成 年卒業		専攻			
ふりがな *氏 名		ふりがな 新 氏 名			
*名簿の 氏名 住所 電話 勤め先 支部 の変更(該当するところへ○を付ける)					
新住所 〒		新勤め先 会社名			
新電話 () -		電 話 () -			